

簿記入門

2025.01.27 石塚 峻斗

日々の業務で
コストとどう向き合っていますか？

QCDS

QCDS

「どれだけリスクを取れるか」

QCDS

「どれだけハウレンソウが出来るか」

QCDS

「どれだけ事業本位で考えられるか」


コストは？

QCDS

「どれだけ会計・財務を理解しているか」

会計・財務とは

now



会計の世界

財務の世界

会計・財務とは

now

会計の世界

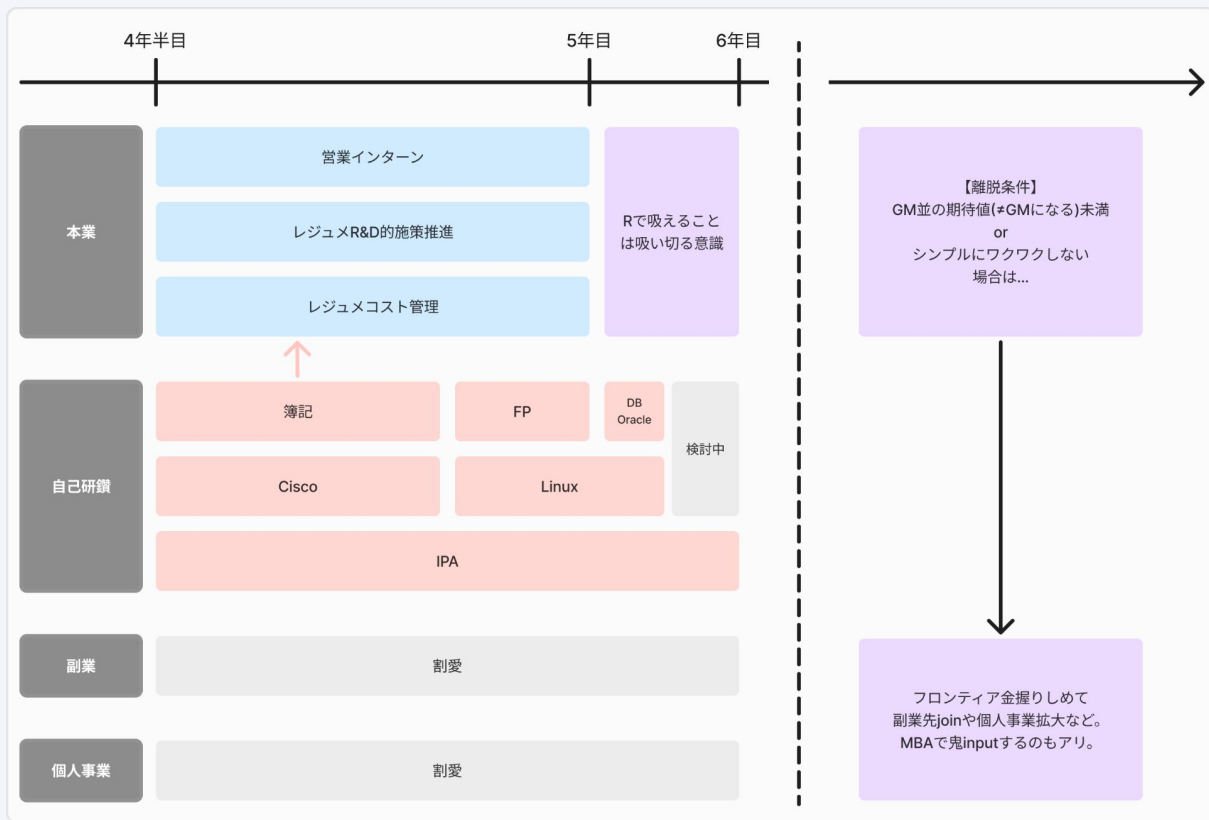
簿記

財務の世界

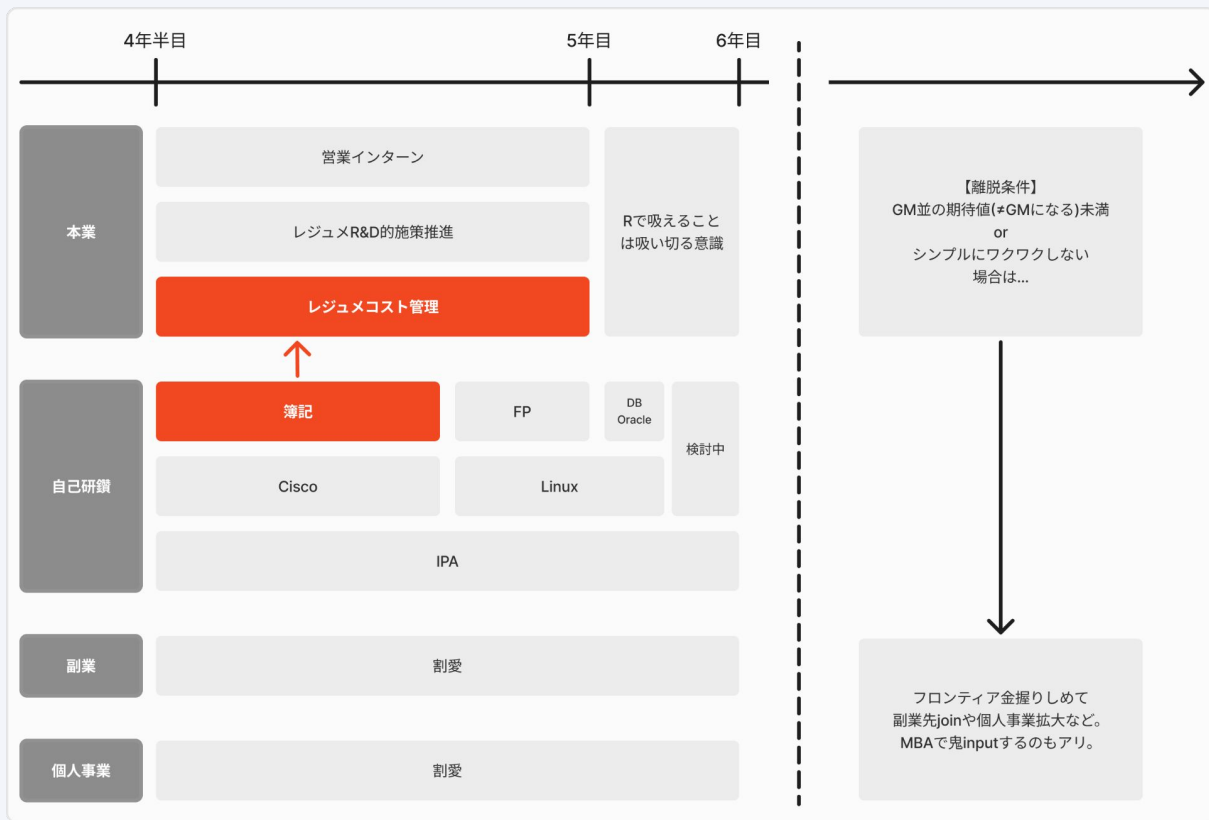
簿記はQCDSのCを扱うための第一歩

個人的なwillと簿記

個人的なwillと簿記



個人的なwillと簿記



個人的なwillと簿記

約1週間の勉強を経て簿記3級に合格 🎉

※ 12/14~12/23



個人的なwillと簿記

約3週間の勉強を経て簿記2級に合格 🎉

※ 12/30~01/19



簿記とは

簿記とは

日々の経営活動を記録・計算・整理して、
経営成績と財政状態を明らかにする技能
([商工会議所公式HP](#)より引用)

簿記とは

日々の経営活動を記録・計算・整理して、
経営成績（P/L）と財政状態（B/S・C/F）を明らかにする（世界共通の）技能
（[商工会議所公式HP](#)より引用）

※ 日本だけIFRSからズレている

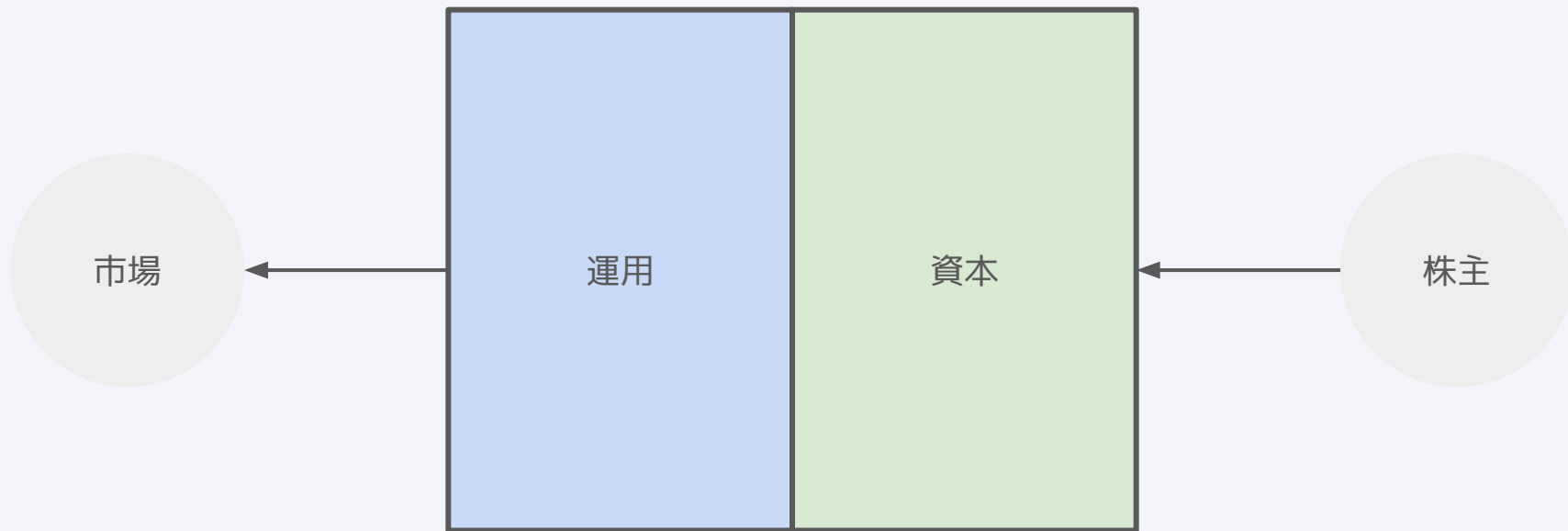
「企業のお金稼ぎの状況を透明化する」 ために
「財務三表」 を作成する営み

簿記の主語は「**会社経営者**」である

B/S（貸借対照表）とは

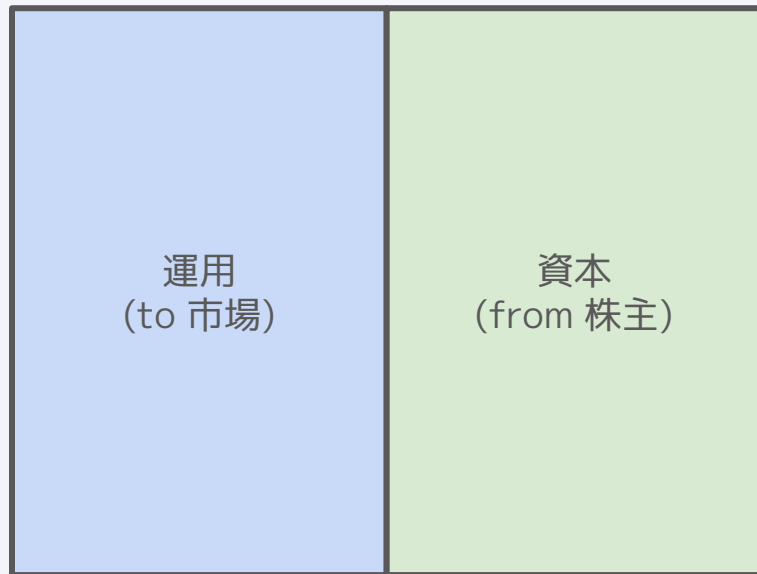
B/S（貸借対照表）とは

会社経営者の思考を**右から左**に表したものの



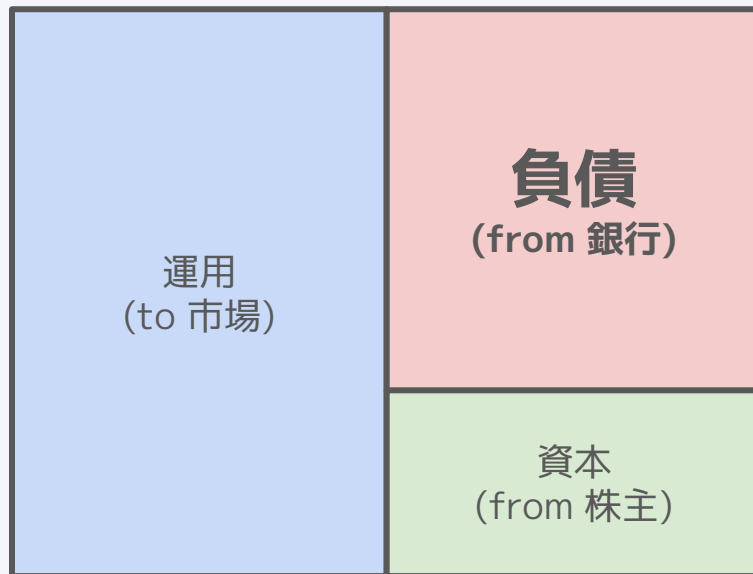
B/S（貸借対照表）とは

お金を**どのように調達し**
どのように使ったのかを示す



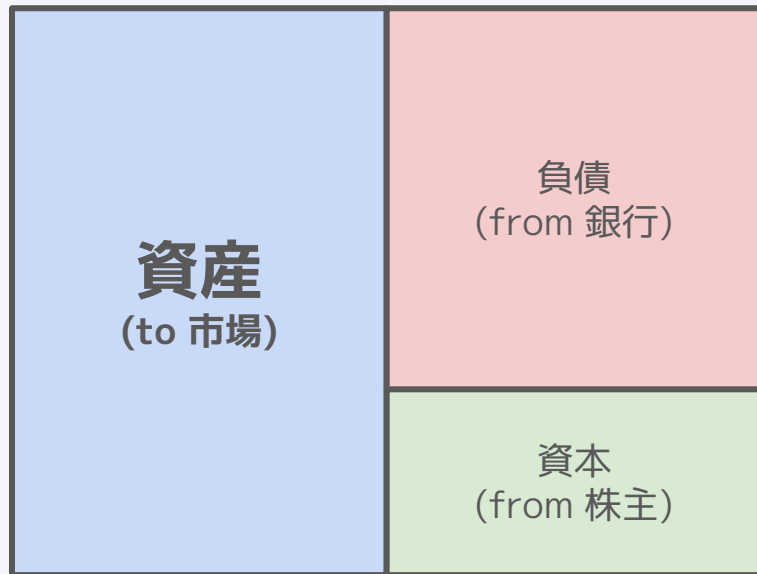
B/S（貸借対照表）とは

お金を**どのように調達し**
どのように使ったのかを示す



B/S（貸借対照表）とは

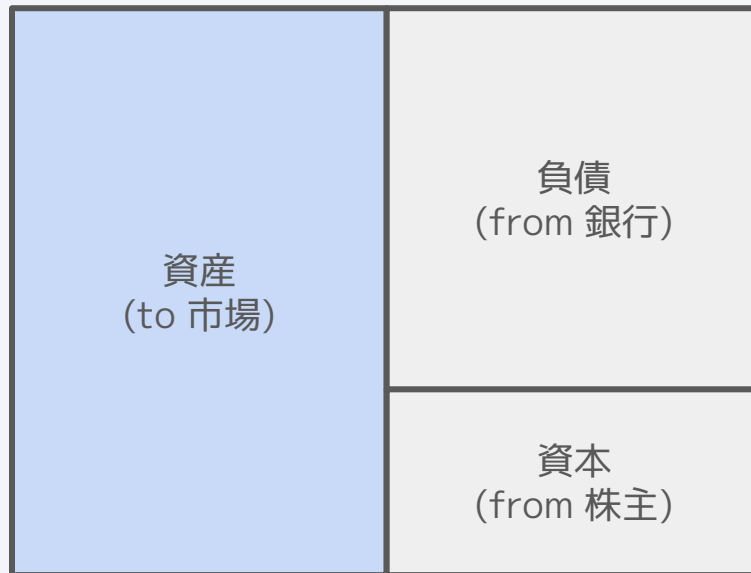
お金を**どのように調達し**
どのように使ったのかを示す



B/S（貸借対照表）とは

(単位: 百万円)

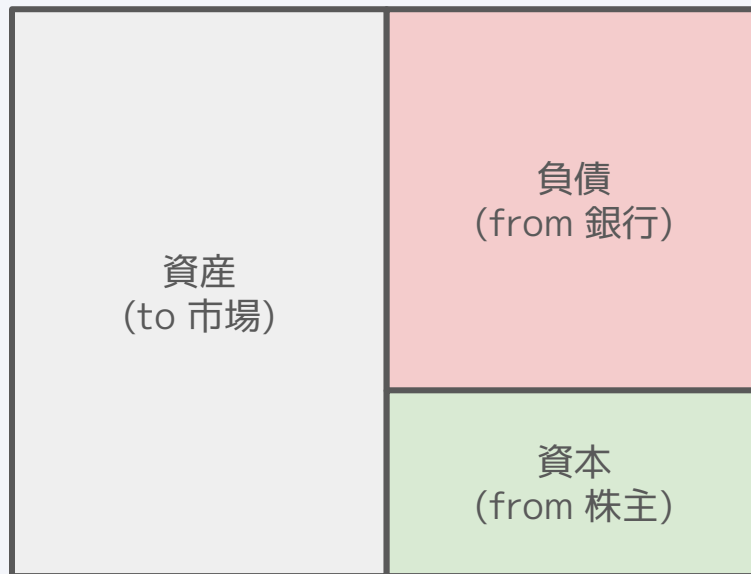
	前年度 (2024年3月31日)	当中間期 (2024年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	1,136,858	757,697
営業債権及びその他の債権	549,814	540,343
その他の金融資産	5,608	4,384
その他の流動資産	70,462	105,592
流動資産合計	1,762,744	1,408,016
非流動資産		
有形固定資産	66,513	57,875
使用権資産	170,366	143,793
のれん	510,638	490,342
無形資産	185,219	182,487
持分法で会計処理されている投資	26,841	25,513
その他の金融資産	210,271	185,143
繰延税金資産	203,482	211,273
その他の非流動資産	8,567	8,488
非流動資産合計	1,381,902	1,304,918
資産合計	3,144,646	2,712,935



B/S（貸借対照表）とは

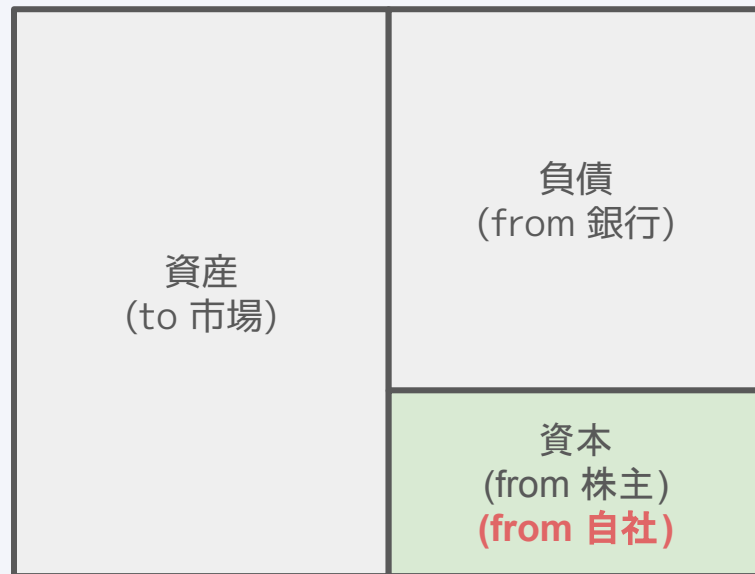
(単位: 百万円)

	前年度 (2024年3月31日)	当中間期 (2024年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	359,856	325,040
借入金	374	49
リース負債	44,248	43,365
その他の金融負債	541	6,575
未払法人所得税	37,679	58,408
引当金	17,214	10,505
その他の流動負債	298,965	282,438
流動負債合計	758,879	726,383
非流動負債		
借入金	1,020	974
リース負債	175,488	151,912
その他の金融負債	556	631
引当金	15,059	14,314
退職給付に係る負債	64,943	65,630
繰延税金負債	111,610	95,834
その他の非流動負債	8,186	8,338
非流動負債合計	376,866	337,637
負債合計	1,135,746	1,064,021
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	40,000	40,000
資本剰余金	-	13,450
利益剰余金	1,884,258	2,067,761
自己株式	△407,049	△912,493
その他の資本の構成要素	483,714	430,148
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,000,922	1,638,867
非支配持分	7,977	10,046
資本合計	2,008,900	1,648,914
負債及び資本合計	3,144,646	2,712,935



B/S（貸借対照表）とは

お金を**どのように調達し**
どのように使ったのかを示す

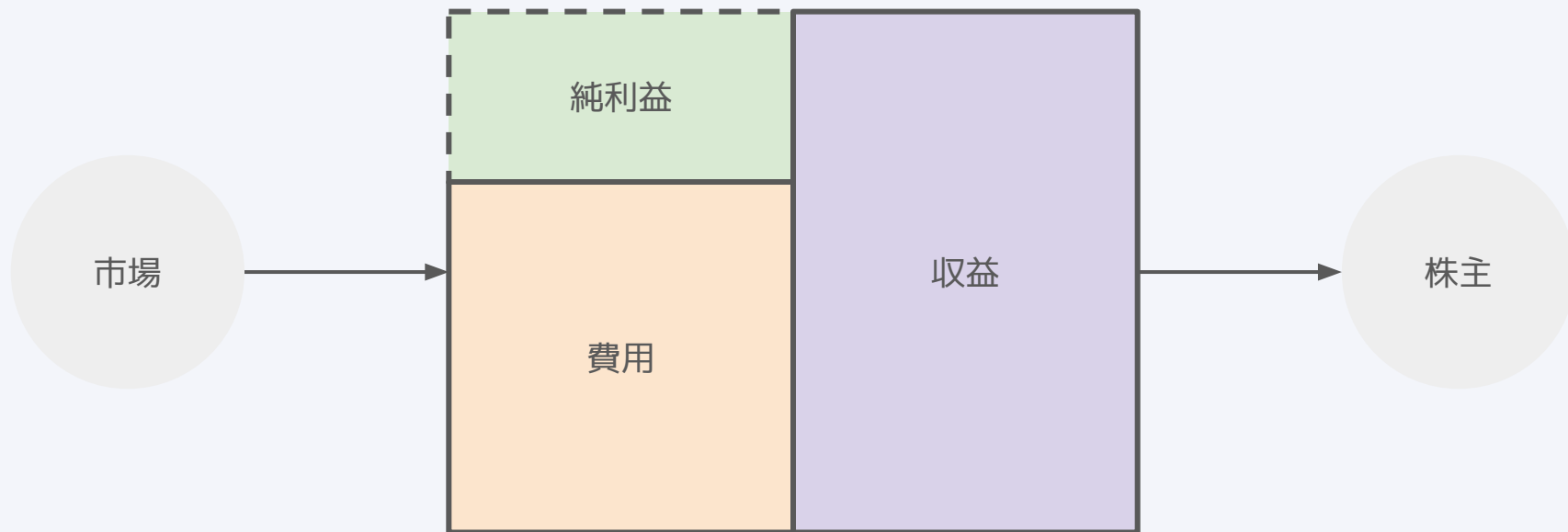


収益から費用を除いた値が純利益

P/L（損益計算書）とは

P/L（損益計算書）とは

会社経営者の思考を**左から右**に表したものの

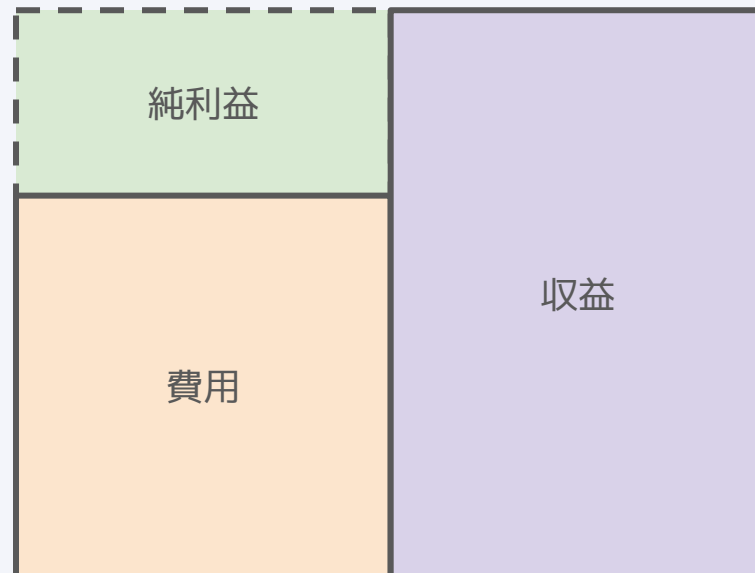


P/L（損益計算書）とは

(単位: 百万円)

	前中間期 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間期 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上収益	収益 1,705,939	1,798,705
売上原価	718,790	741,520
売上総利益	987,149	1,057,184
販売費及び一般管理費	741,251	769,186
その他の営業収益	1,705	2,183
その他の営業費用	費用 9,769	20,472
営業利益	237,833	269,708
持分法による投資損益（△は損失）	△139	△2,340
金融収益	26,005	32,974
金融費用	2,652	3,288
税引前中間利益	261,047	297,053
法人所得税費用	47,458	74,649
中間利益	利益 213,588	222,404
中間利益の帰属		
親会社の所有者	213,074	222,495
非支配持分	514	△91
中間利益	213,588	222,404
親会社の所有者に帰属する1株当たり中間利益		
基本的1株当たり中間利益（円）	135.44	145.64
希薄化後1株当たり中間利益（円）	133.92	142.81

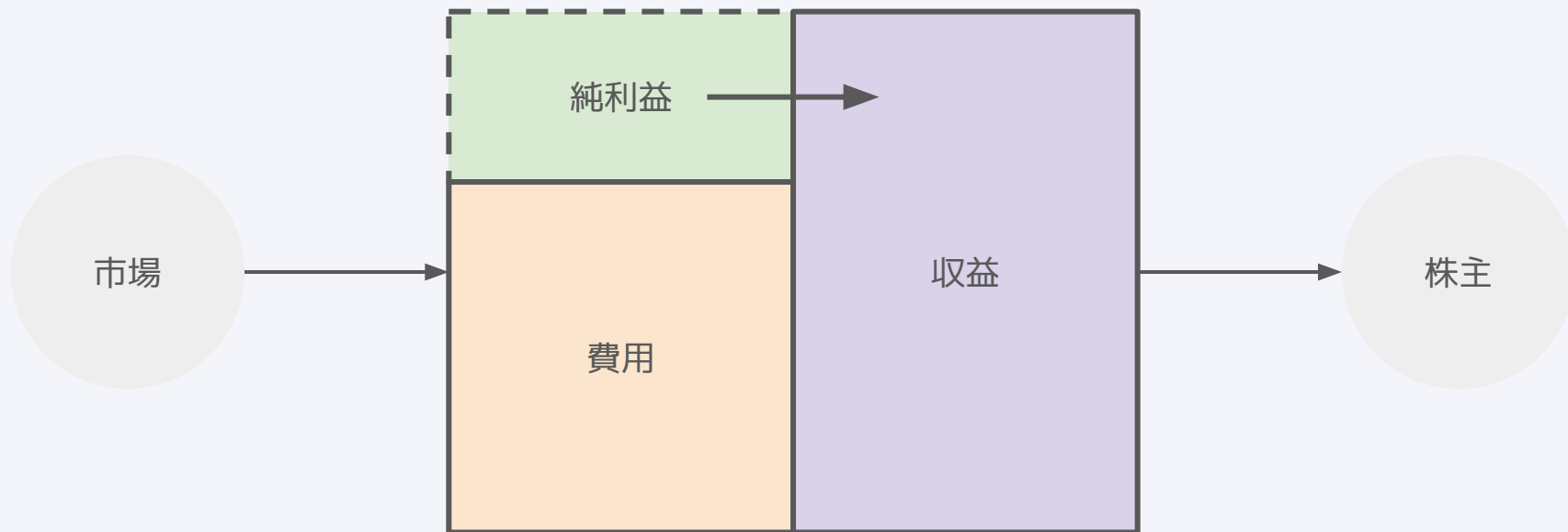
連結会計の手続き



B/SとP/Lを繋ぐことができる

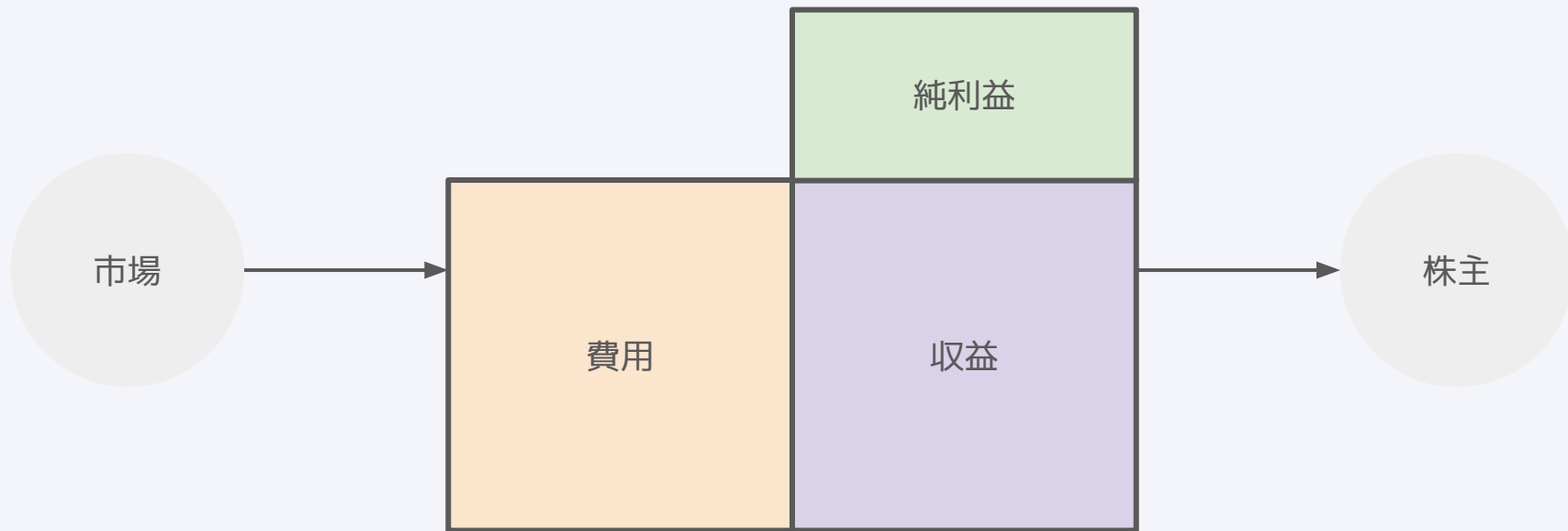
P/L（損益計算書）とは

会社経営者の思考を**左から右**に表したものの



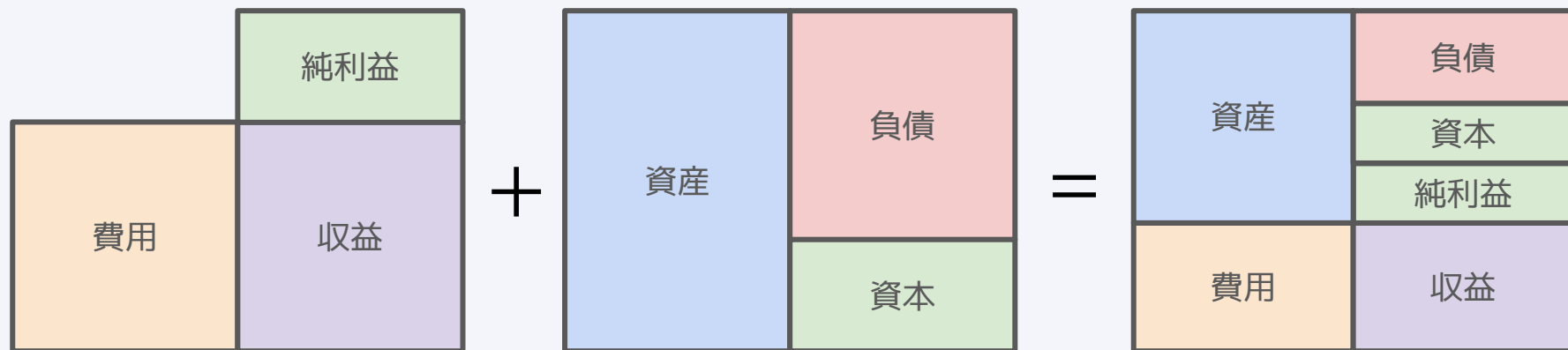
P/L（損益計算書）とは

会社経営者の思考を**左から右**に表したものの

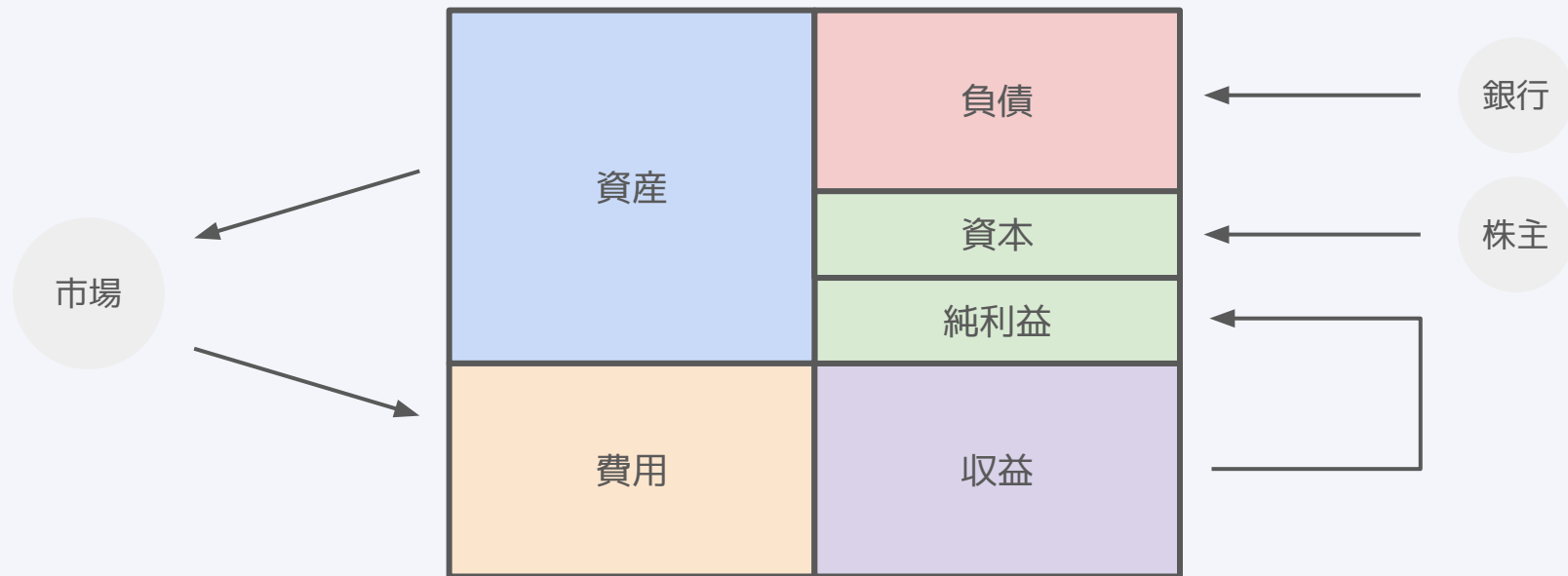


B/SとP/Lの関係

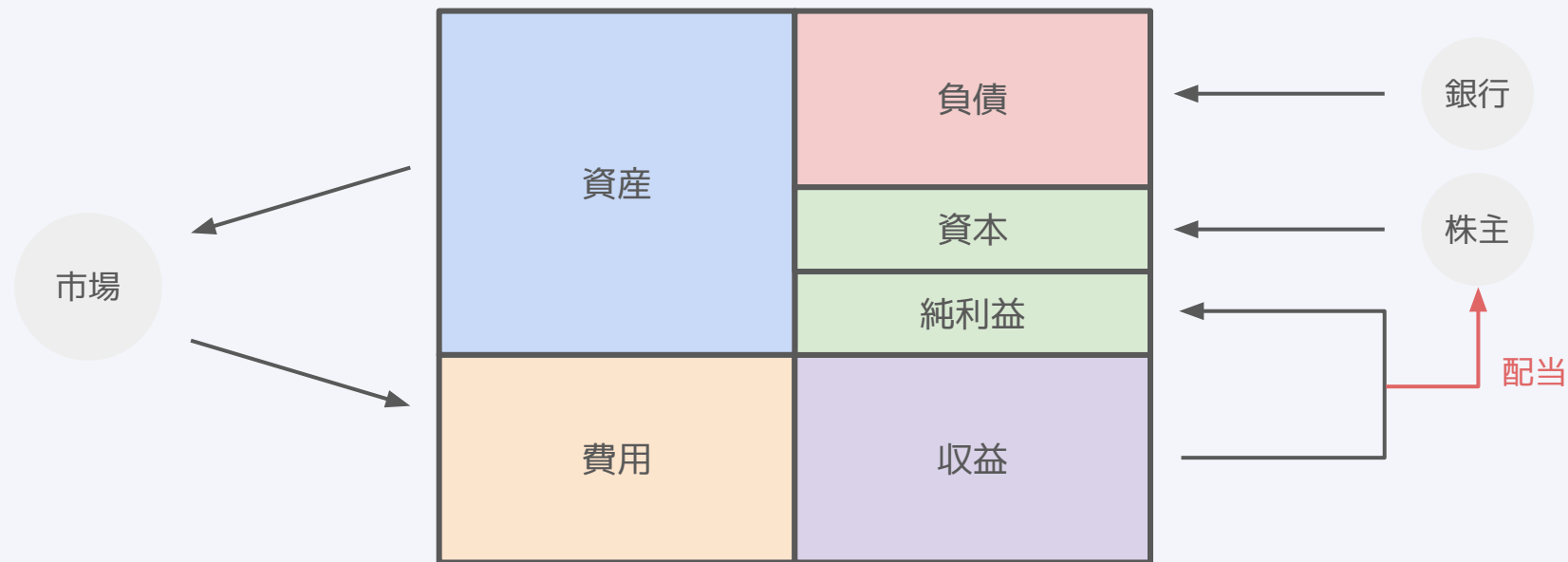
純利益を通して**合体**する



B/SとP/Lまとめ

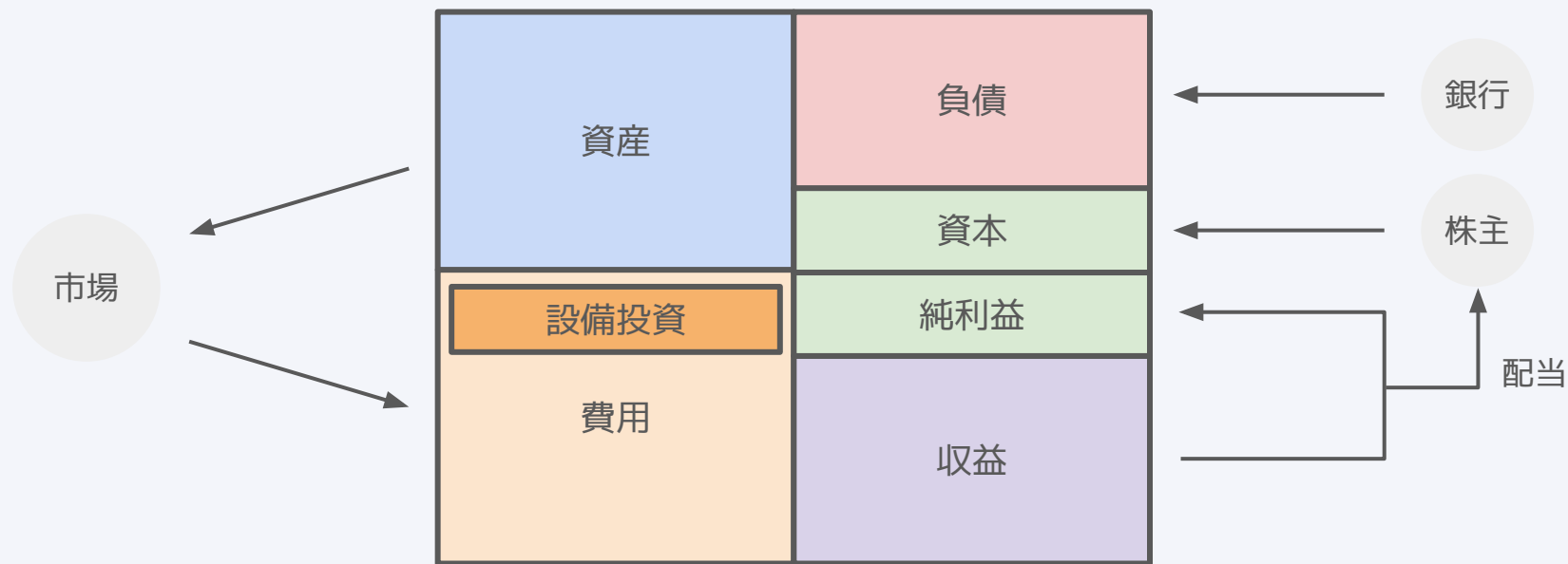


B/SとP/Lまとめ



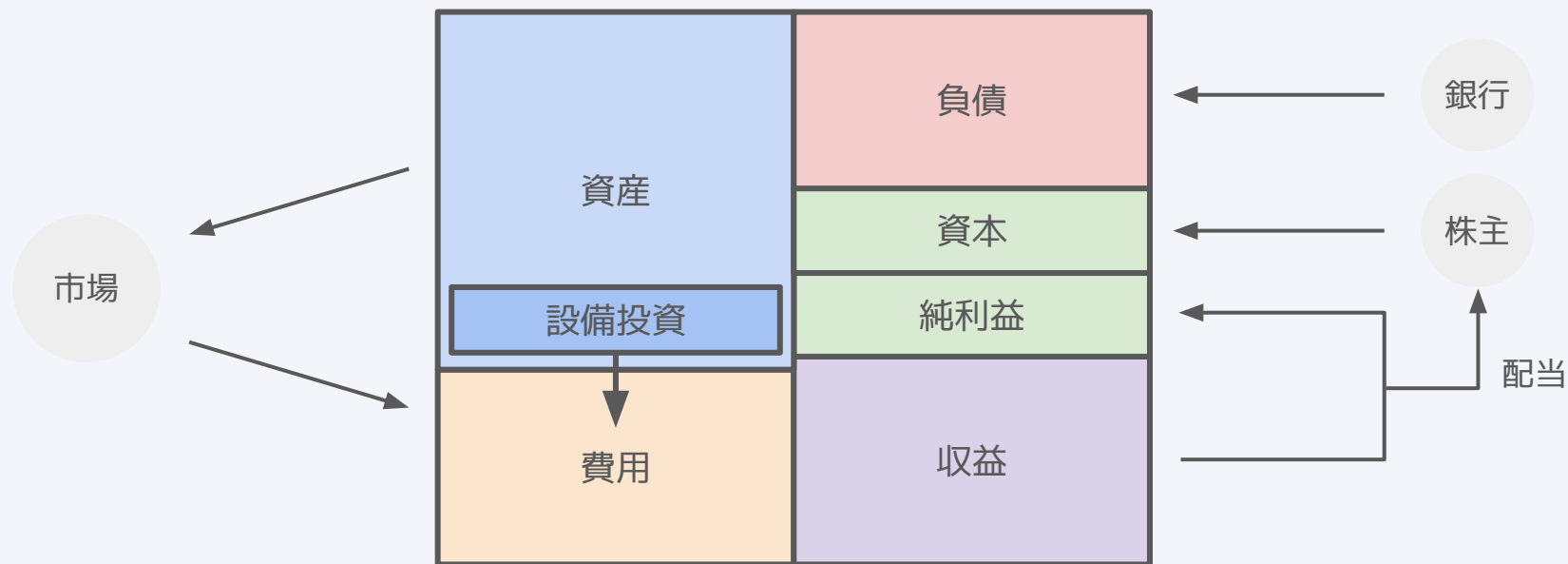
(参考) 減価償却の可視化

産業革命時に発明された「費用の分割計上」 ※ 株主の投資タイミングによる不公平感もなくせる
※ 費用と売上高の対応原則も満たせる



(参考) 減価償却の可視化

産業革命時に発明された「費用の分割計上」 ※ 株主の投資タイミングによる不公平感もなくせる
※ 費用と売上高の対応原則も満たせる



リクルートHDの経営指標はEBITDAを採用している



EBITDAでは減価償却費を費用として計上しない



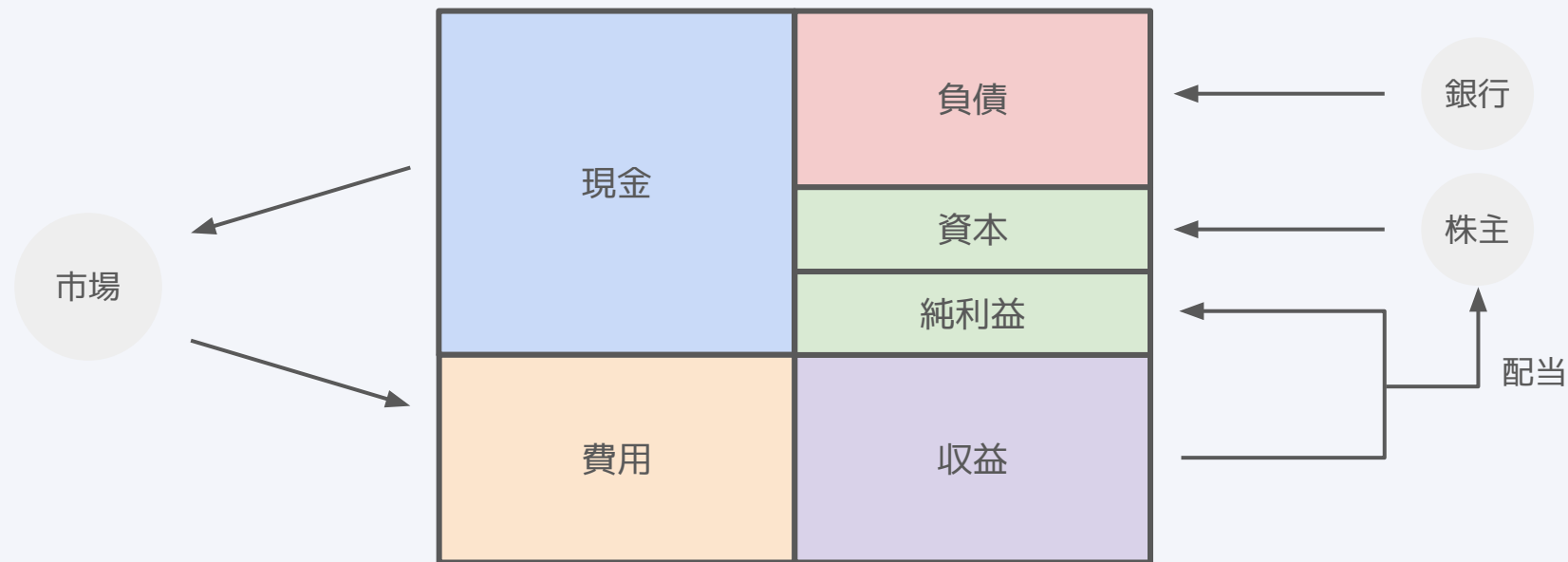
資産性の投資（人件費も含む）は利益を削らない

C/F（キャッシュフロー計算書）とは

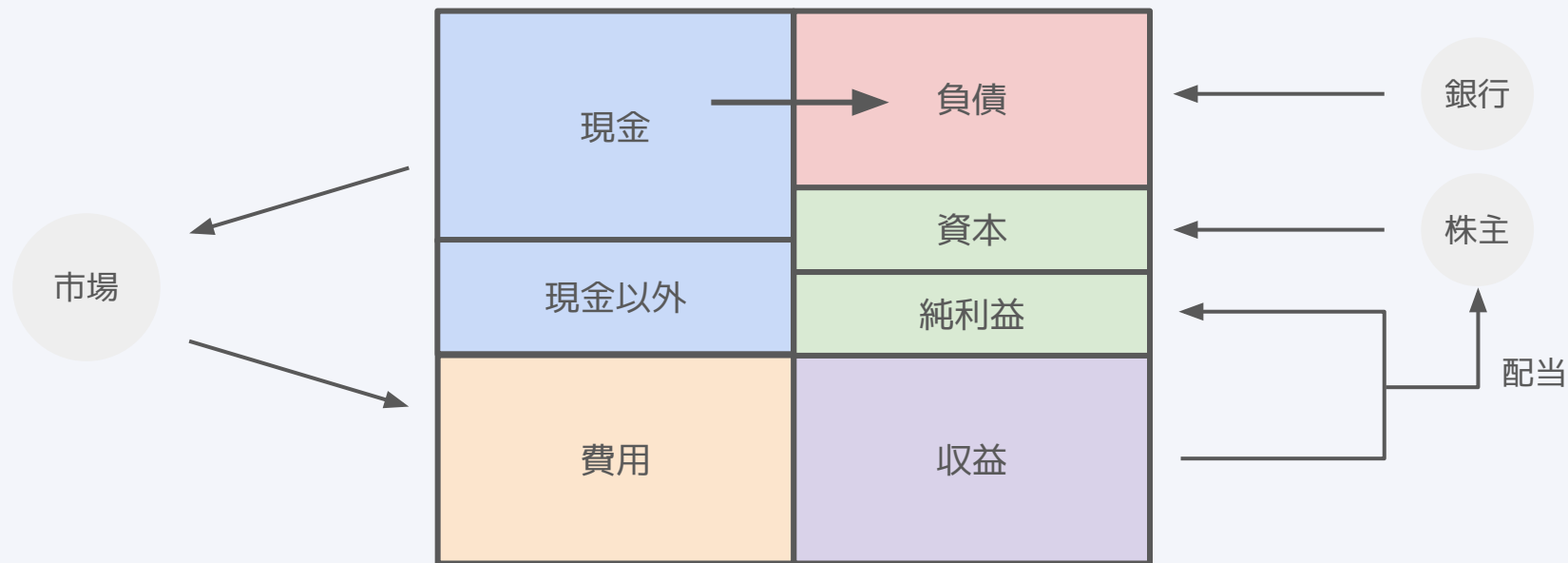
黒字倒産とは

利益が出ているにも拘らず、**支払いに必要な現金が不足し**
倒産してしまうこと

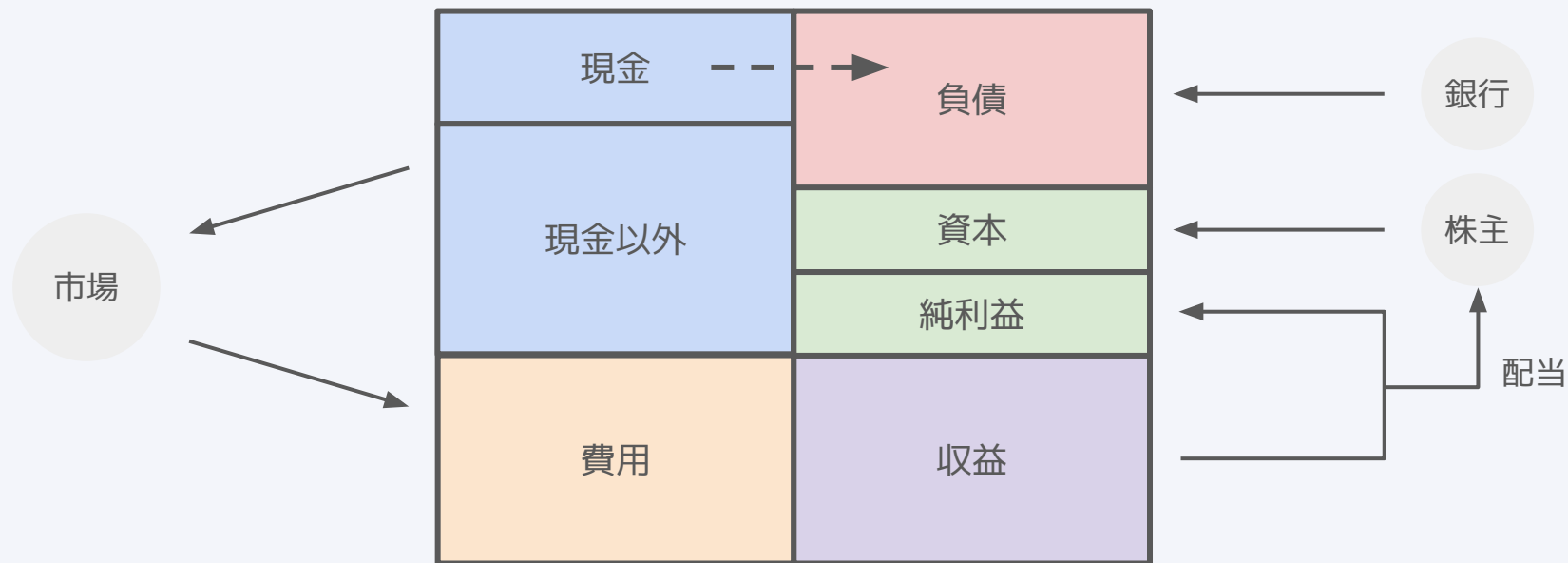
現金と負債のバランスに着目



現金>負債であれば黒字倒産のリスク小



現金<負債であれば黒字倒産のリスク大



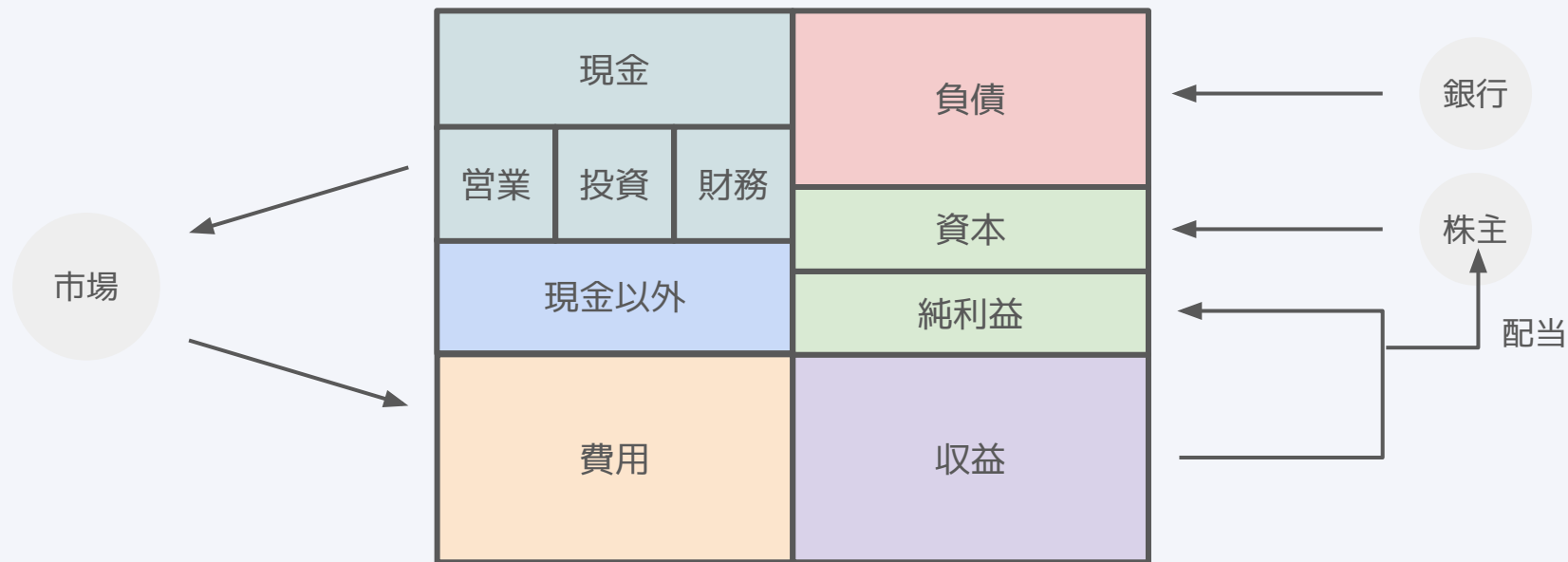
負債に対して現金が不足している状態

B/Sで左側（資産）の解像度を上げる必要がある

**P/Lが純利益を生み出すサイクルを表現していたように
現金のサイクルを表現することはできないか**

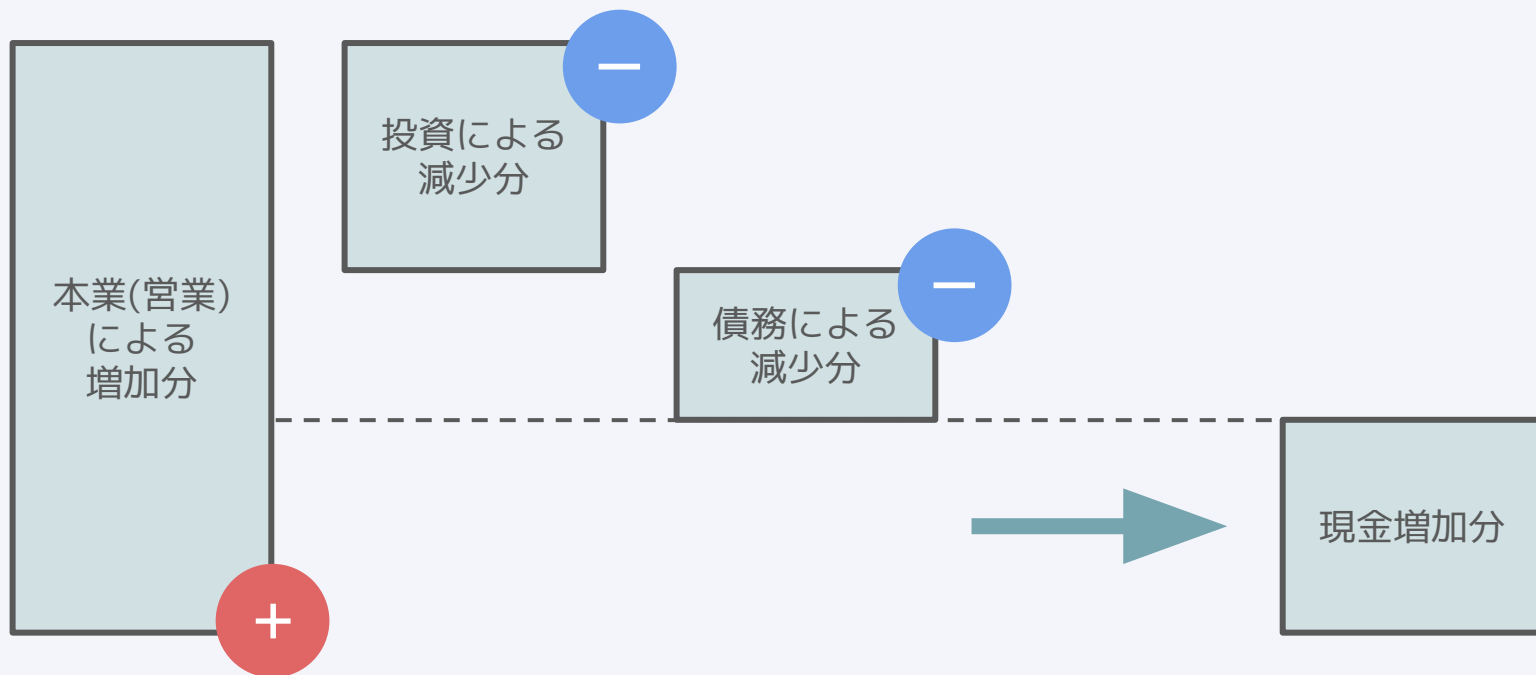
C/F（キャッシュフロー計算書）とは

現金が何に使われてどのように変化したかを表す



C/F（キャッシュフロー計算書）とは

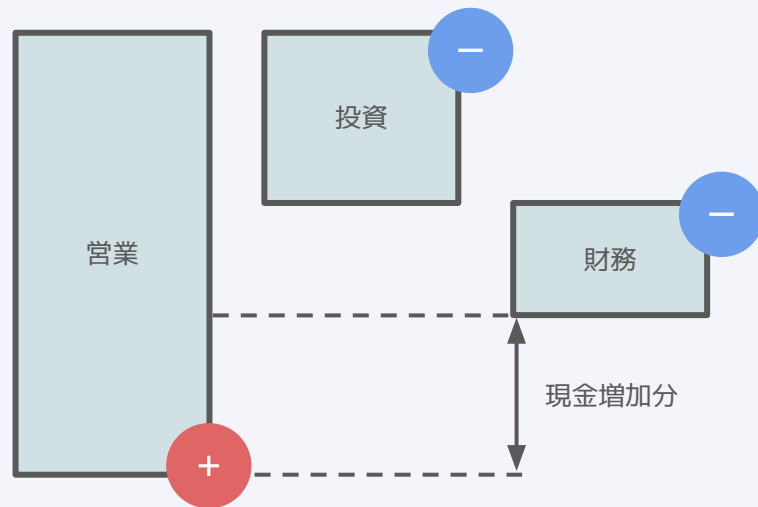
現金が何に使われてどのように変化したかを表す



C/F (キャッシュフロー計算書) とは

(単位: 百万円)

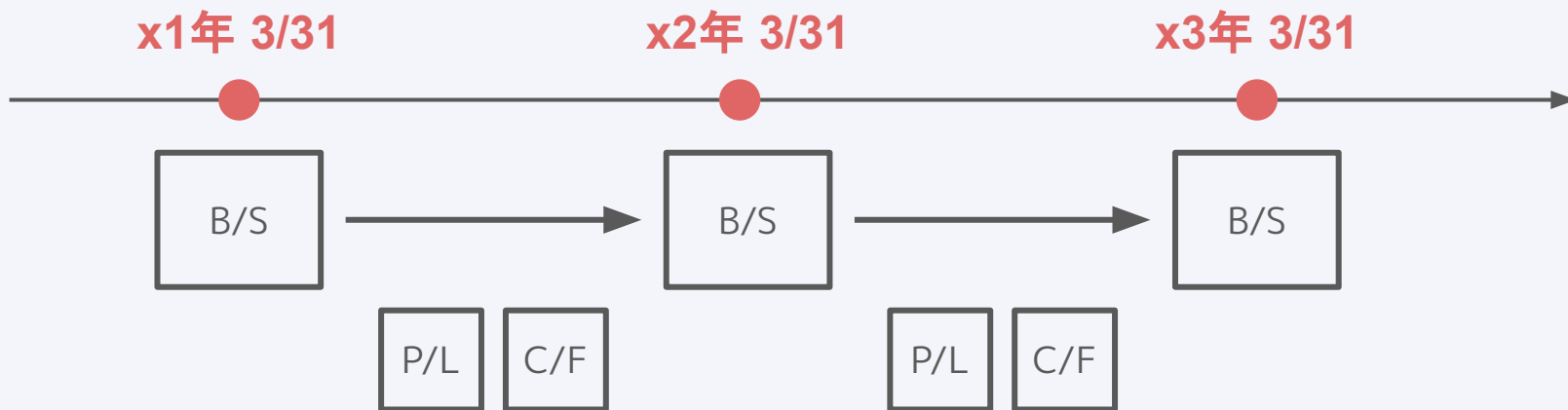
	前中間期 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間期 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業		
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間利益	261,047	297,053
減価償却費及び償却費	57,136	54,670
株式報酬費用	45,400	43,476
受取利息及び受取配当金	△19,368	△19,397
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	45,455	34
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△52,505	△29,121
その他の増減	△22,589	△26,865
小計	314,576	319,850
利息及び配当金の受取額	19,010	19,914
利息の支払額	△2,467	△3,237
法人所得税の支払額	△86,174	△57,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	244,944	279,046
投資		
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,528	△4,303
無形資産の取得による支出	△28,908	△28,887
その他	726	3,314
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,709	△29,876
財務		
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△12,478	-
リース負債の返済による支出	△23,232	△21,796
自己株式の取得による支出	△66,288	△532,566
自己株式取得のための預託金の増減額 (△は増加)	-	△38,954
配当金の支払額	△17,369	△17,765
デリバティブの決済による収入	6,990	11,925
その他	954	2,033
財務活動によるキャッシュ・フロー	△111,425	△597,122
現金及び現金同等物に係る換算差額	109,930	△31,208
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	208,740	△379,161
現金及び現金同等物の期首残高	877,370	1,136,858
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,086,110	757,697



ここまで紹介したB/S・P/L・C/Fを合わせて
財務三表とよびます

B/S・P/L・C/F（財務三表）の捉え方

- B/Sは**ある地点**における企業の状況
- P/LとC/Fは**ある期間**におけるB/Sの変化



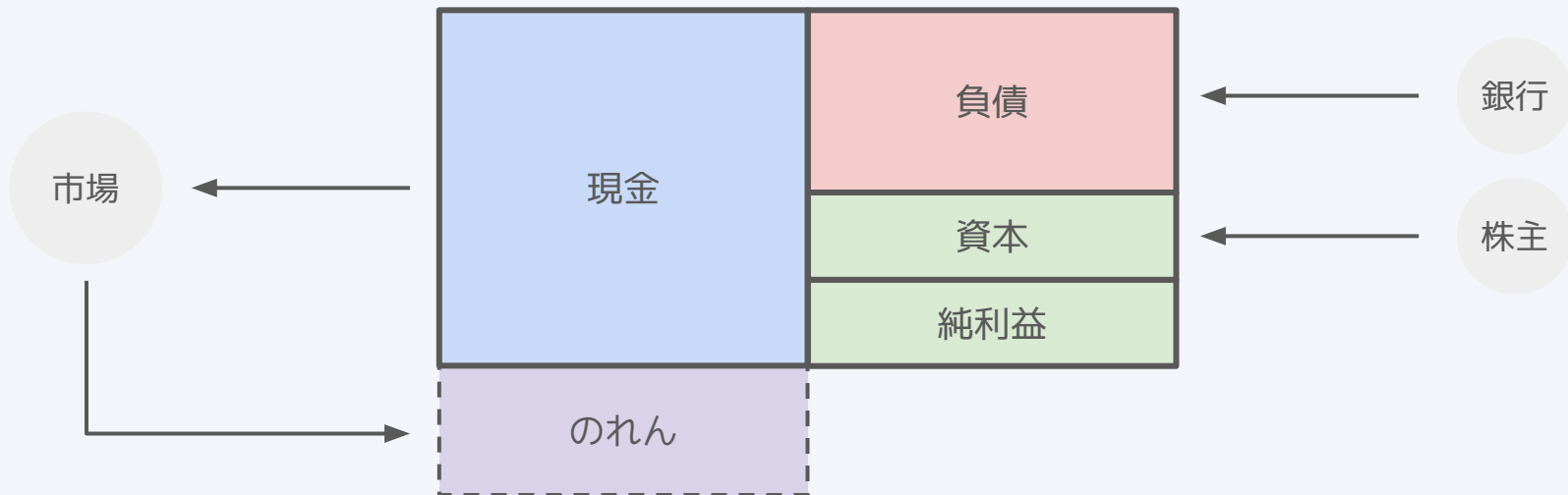
「のれん」とは

リクルート時価総額20兆を目指そう

時価総額を簿記で捉えると…？

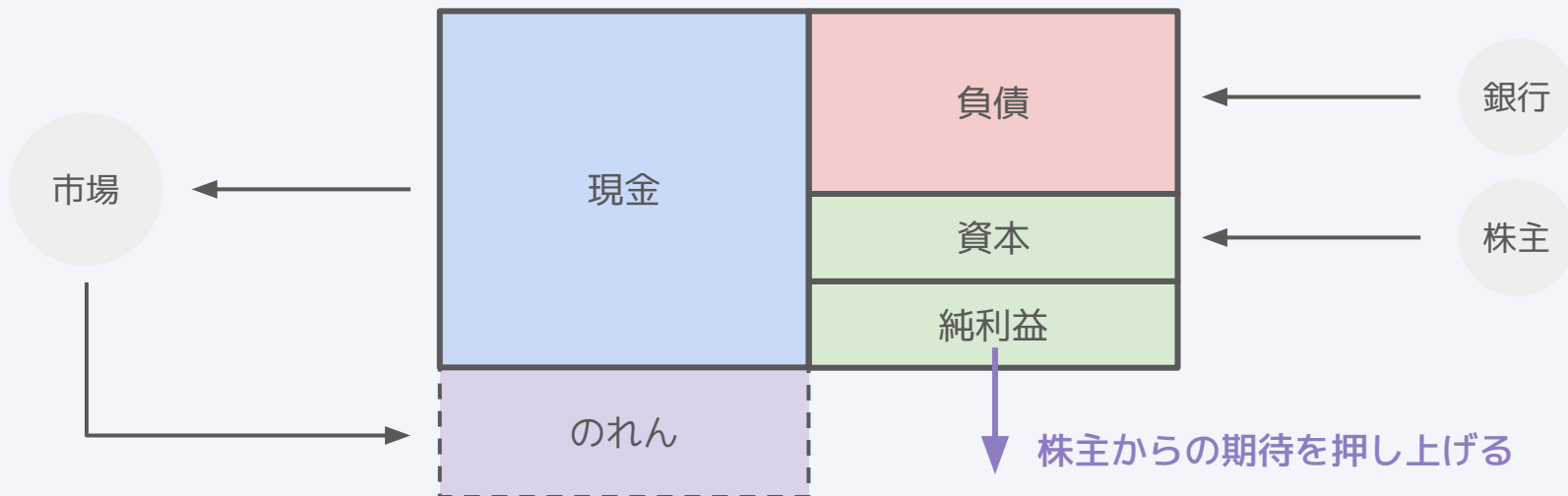
のれんとは

ブランド・ノウハウ・信用など目に見えない資産のこと



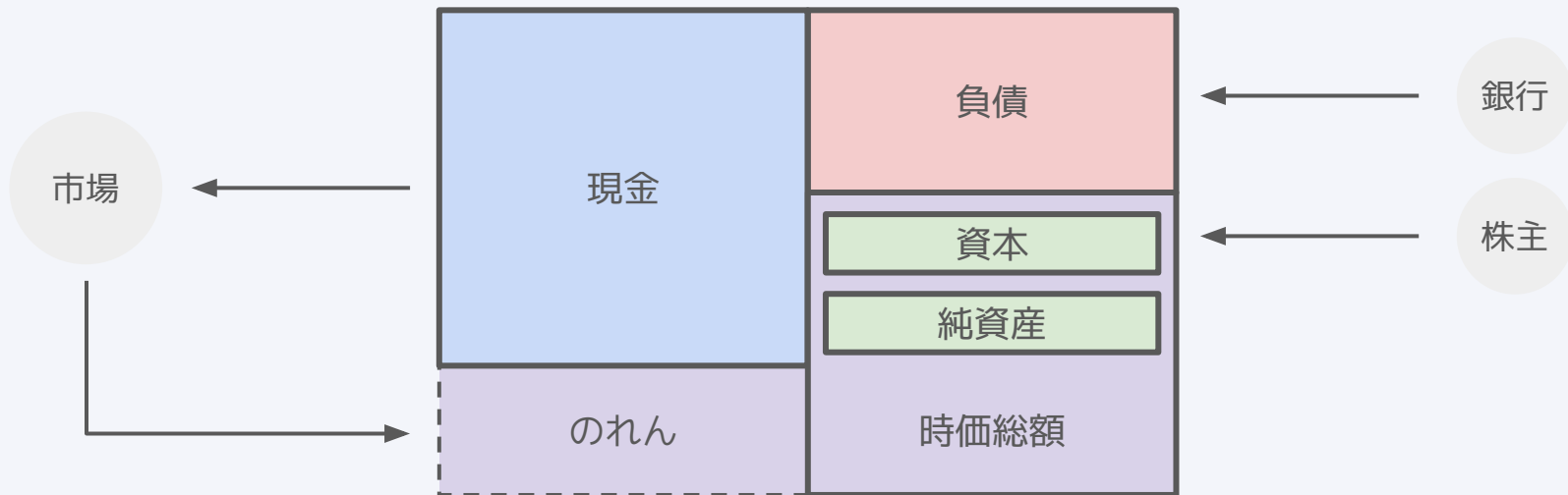
のれんとは

ブランド・ノウハウ・信用など目に見えない資産のこと



のれんとは

ブランド・ノウハウ・信用など目に見えない資産のこと



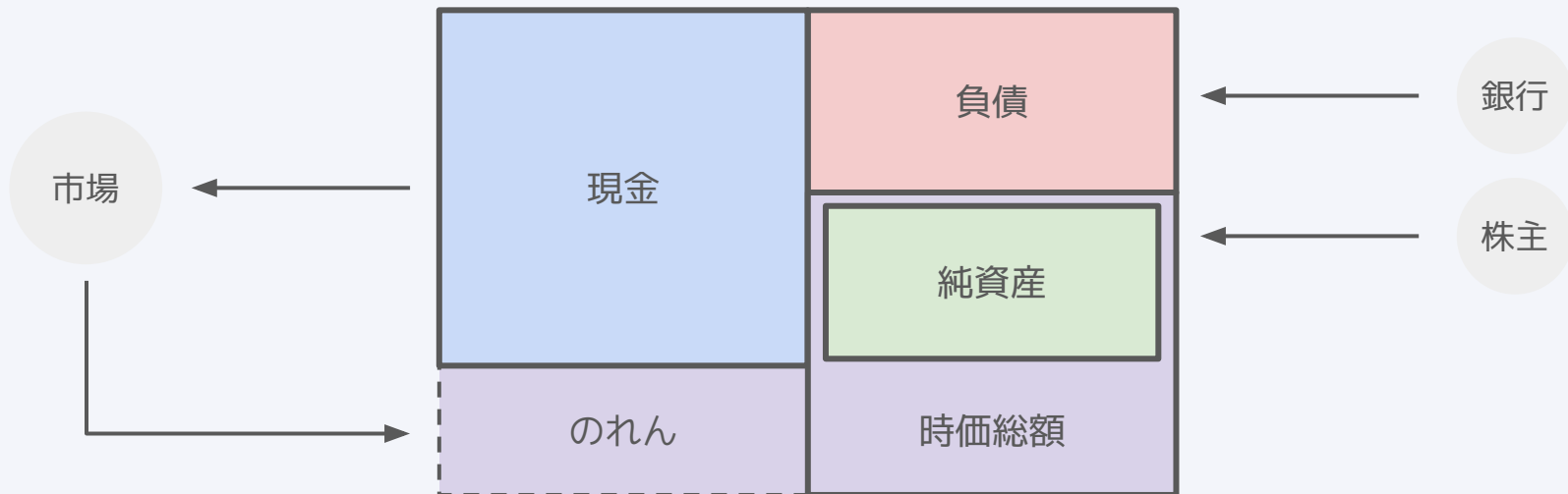
時価総額が上がると何が嬉しいか？

**資本を資産に回すことができ
リクルートが事業に使えるお金が増える**

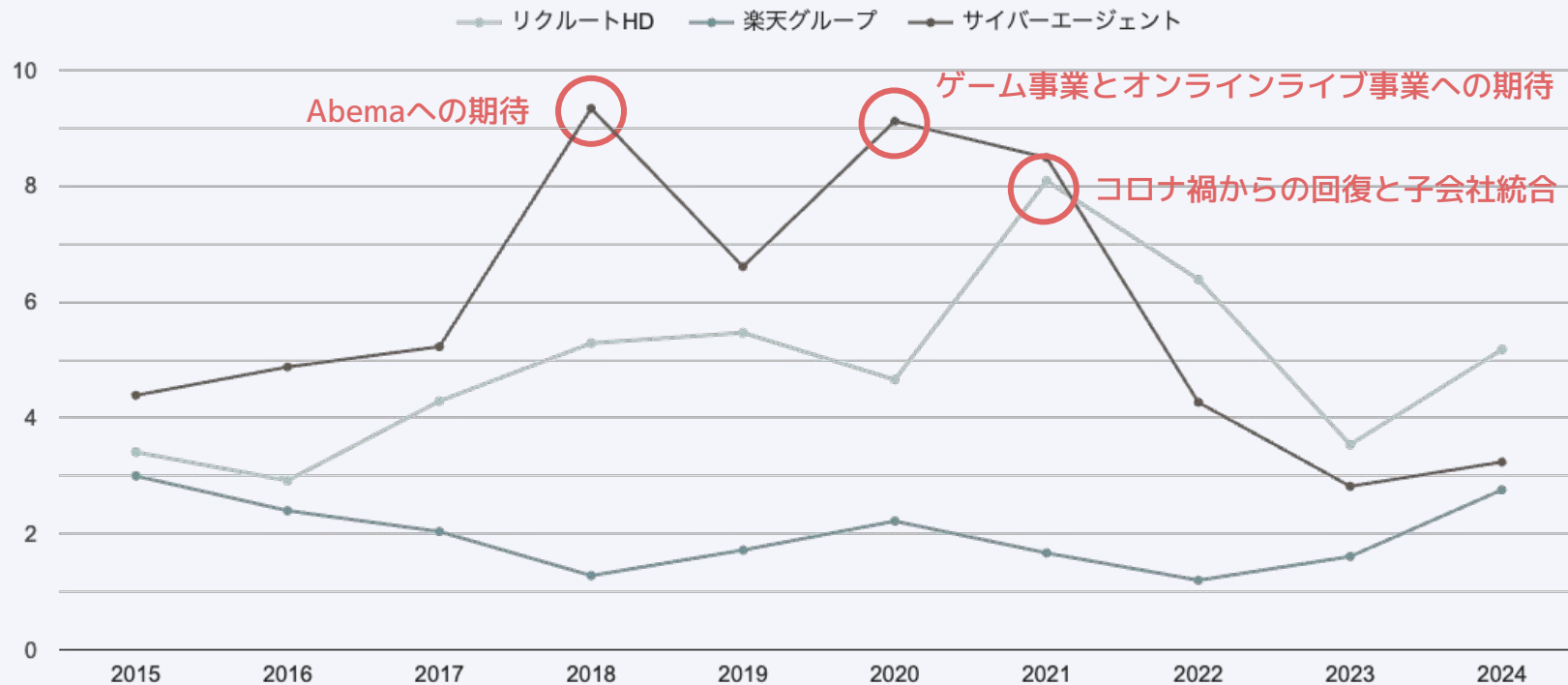
つまりリクルートの事業には
時価総額を押し上げるための「**のれん**」が肝要

のれんに対する定量指標

PBR（時価総額/純資産） はのれんの大きさを表している
Price Book-value Ratio



各社のPBR



PBRはROAとROEに分解できる

$$\frac{\text{時価総額}}{\text{純資産}} = \frac{\text{時価総額}}{\text{利益}} \times \frac{\text{利益}}{\text{純資産}}$$

PBR

Price Book-value Ratio

のれんの大きさ

PER

Price Earnings Ratio

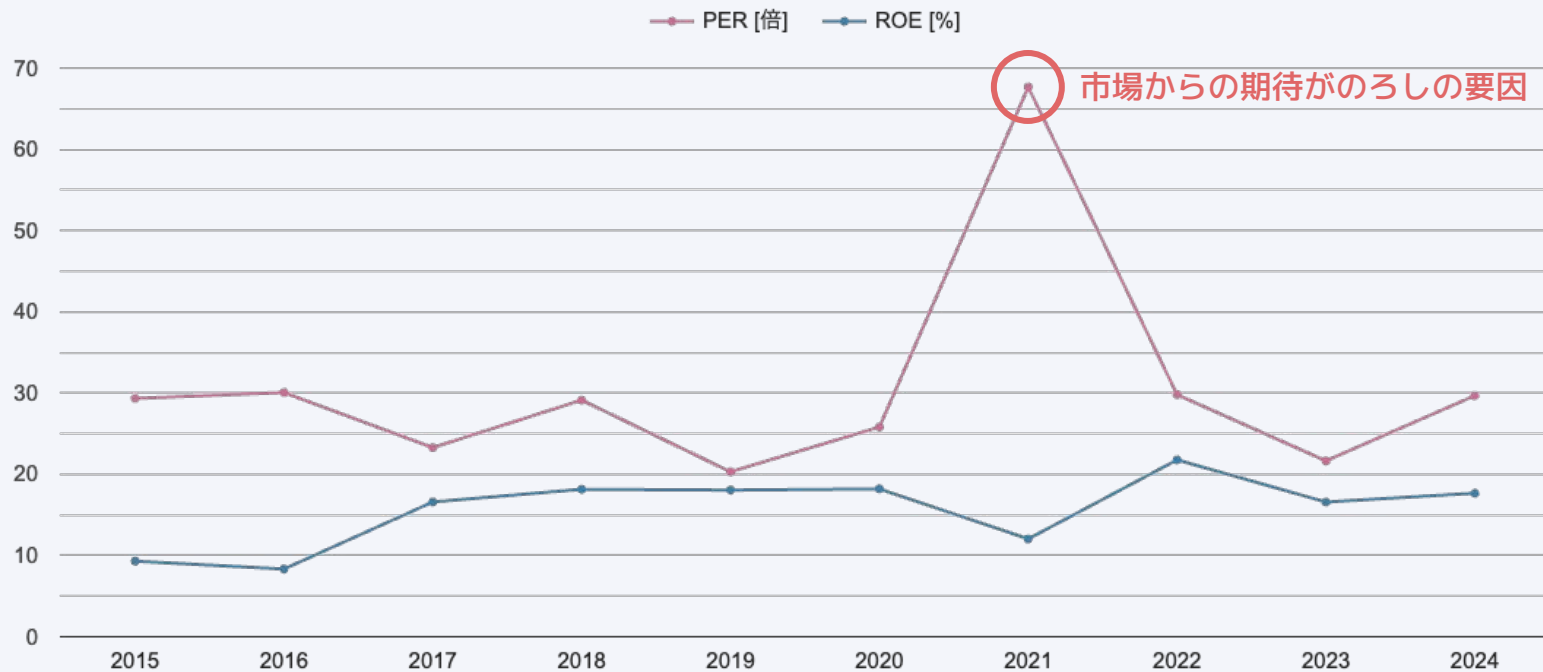
成長性とリスク
(長期目線)

ROE

Return On Equity

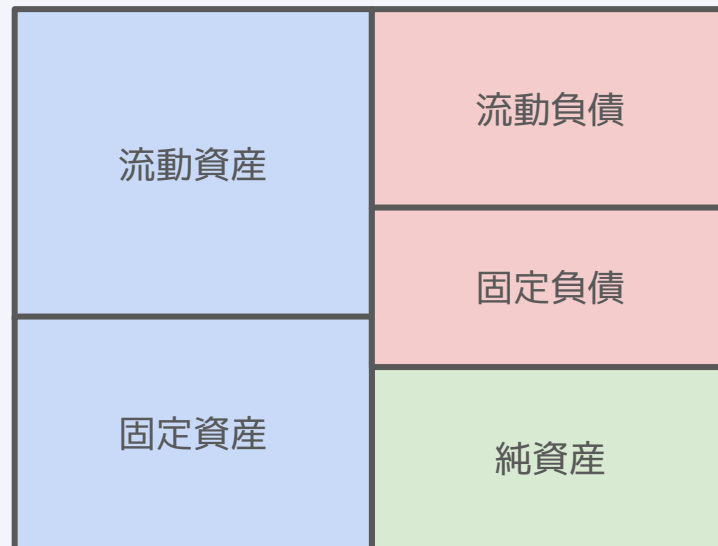
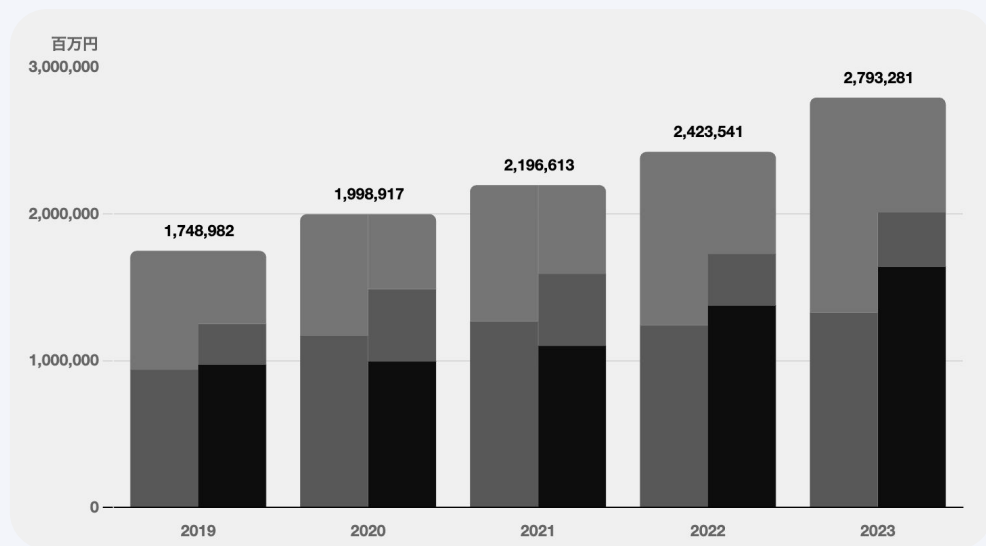
稼ぎの効率
(短期目線)

リクルートのPERとROE

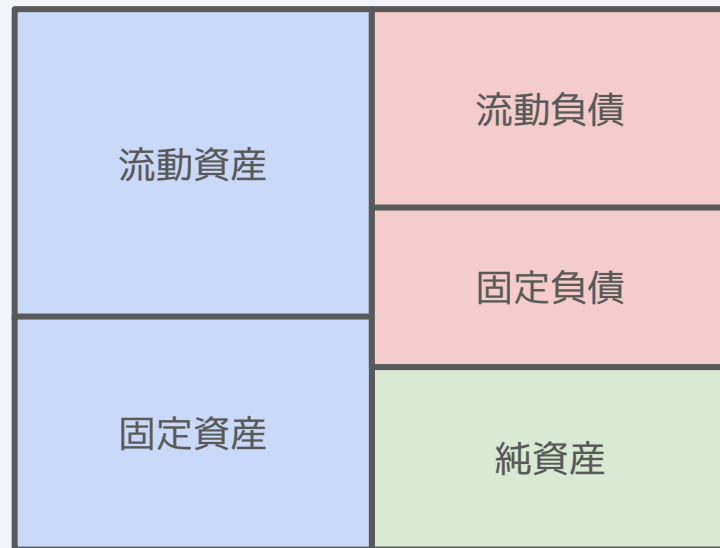
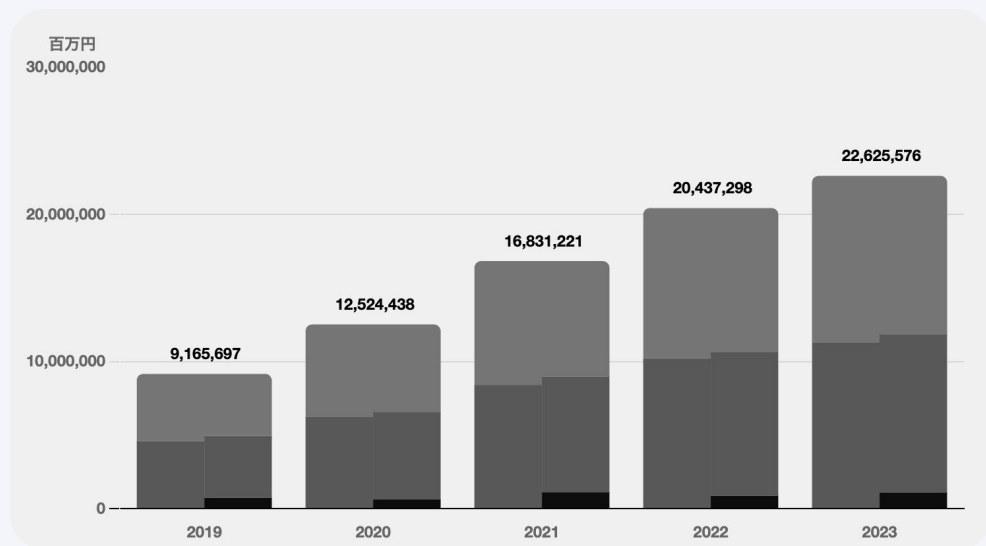


財務三表による企業分析

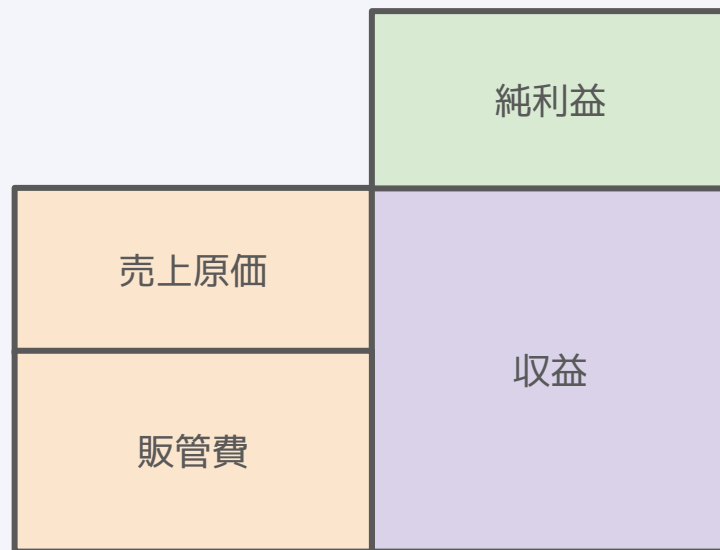
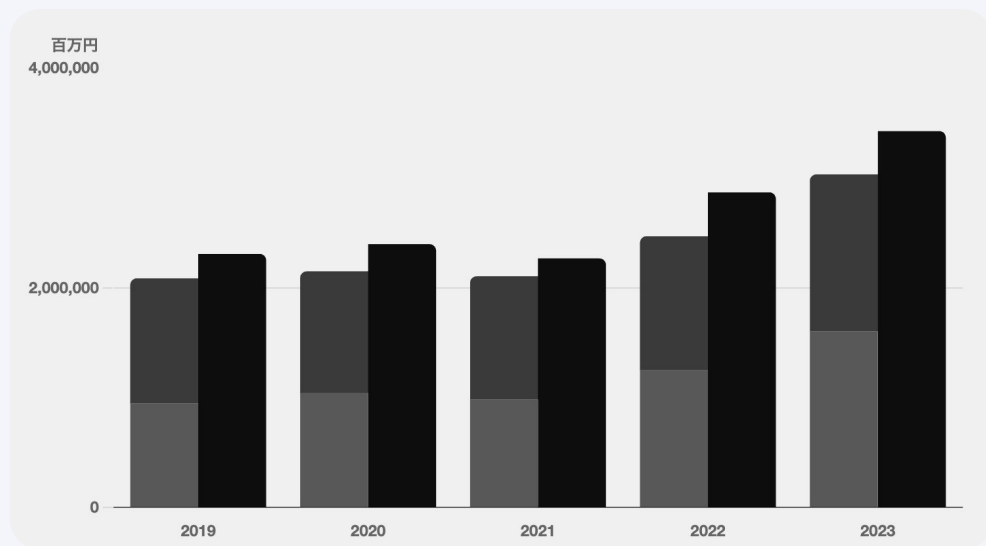
B/Sによる企業分析（リクルートHD）



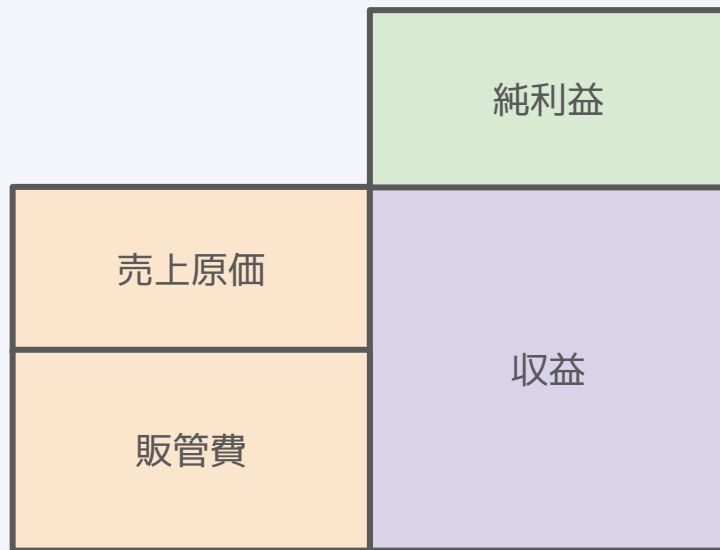
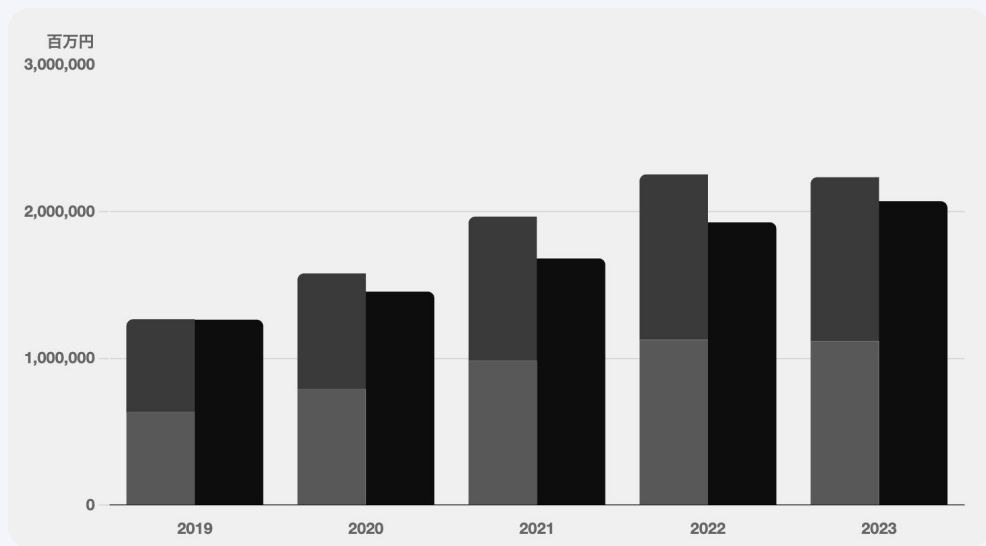
B/Sによる企業分析（楽天グループ）



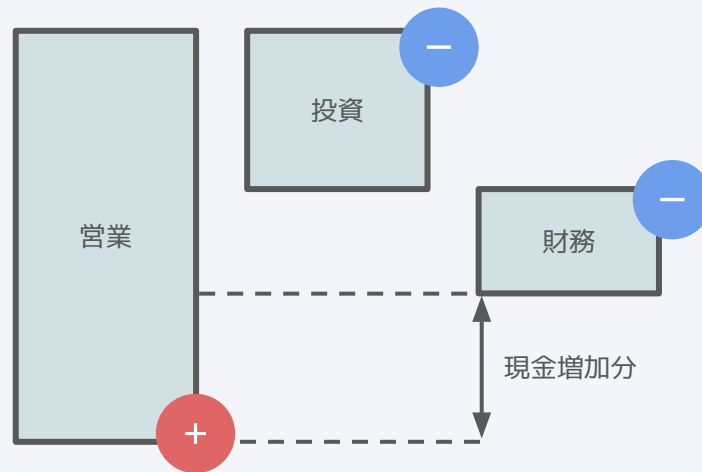
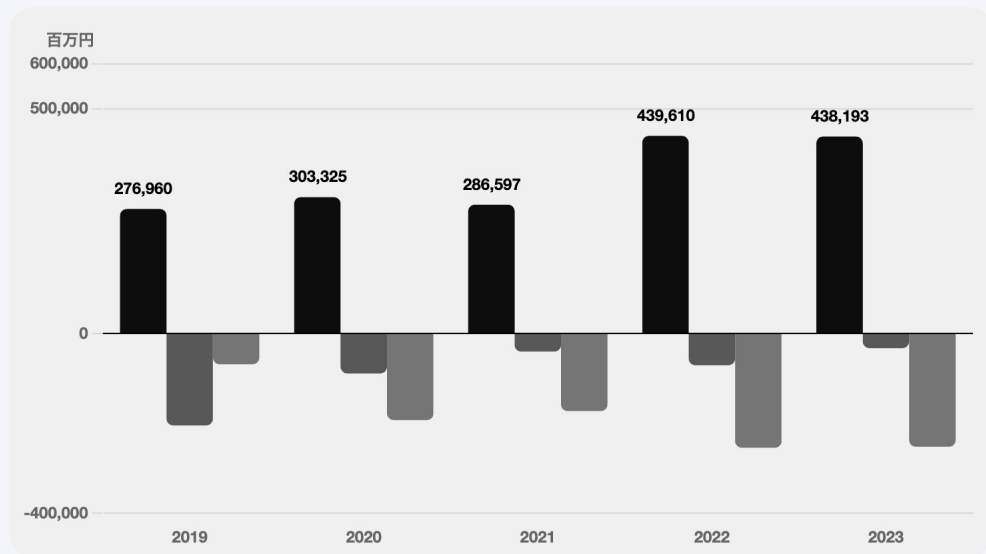
P/Lによる企業分析（リクルートHD）



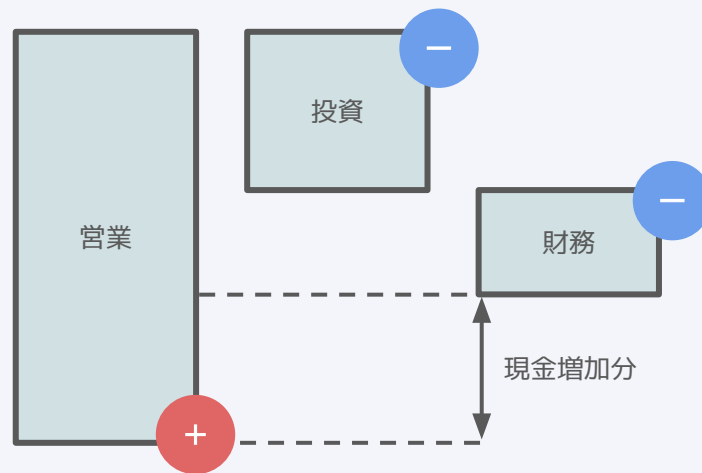
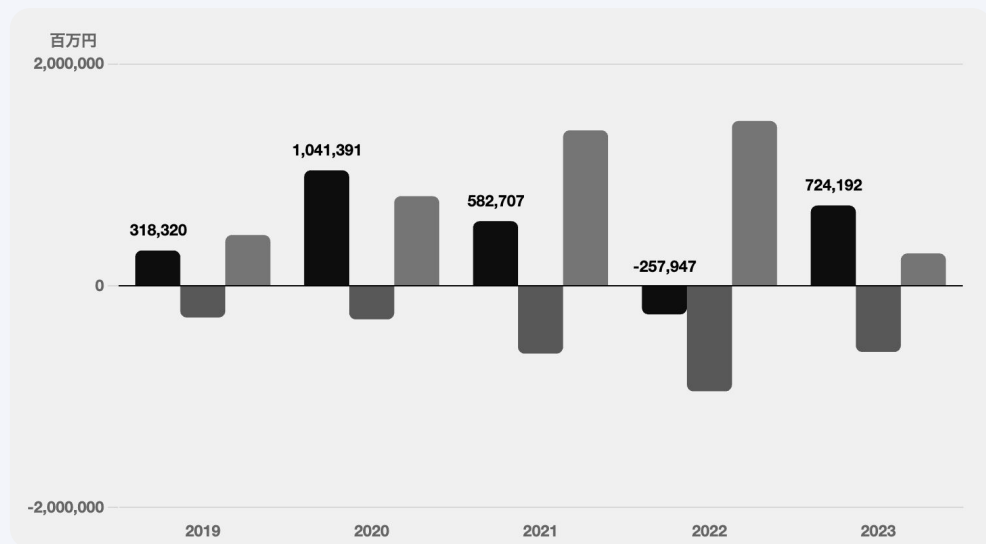
P/Lによる企業分析（楽天グループ）



C/Fによる企業分析（リクルートHD）



C/Fによる企業分析（楽天グループ）



おわりに

おわりに

簿記3級～簿記2級では他にも以下を学んだ

簿記3級

- 商品売買
- 期首/期末残高
- 債務債権
- 貸倒引当金
- 減価償却
- 法人税と消費税
- 精算表と財務諸表

簿記2級（商業簿記）

- 連結会計
- 外貨建取引
- リース取引
- 税効果会計
- 圧縮記帳
- 剰余金の配当
- 本支店会計

簿記2級（工業簿記）

- 材料費/労務費/経費
- 棚卸減耗と評価損
- 製造間接費の配賦
- 個別/総合原価計算
- 本社工場会計
- 標準原価計算
- 直接原価計算

おわりに

特に学びになったものは以下の通り

簿記3級

- 商品売買
- 期首/期末残高
- 債務債権
- 貸倒引当金
- **減価償却**
- **法人税と消費税**
- **精算表と財務諸表**

簿記2級（商業簿記）

- **連結会計**
- **外貨建取引**
- リース取引
- **税効果会計**
- 圧縮記帳
- 剰余金の配当
- 本支店会計

簿記2級（工業簿記）

- 材料費/労務費/経費
- **棚卸減耗と評価損**
- **製造間接費の配賦**
- 個別/総合原価計算
- 本社工場会計
- **標準原価計算**
- 直接原価計算

自分はいくまでも
「これ以上勉強しないためのストッパー」として
資格試験を利用している

一方で、
資格試験は該当分野の知識を効率よく得るための
ロードマップが敷かれていると
捉えられる

学校教育の試験とは異なり、
「社会人として活躍できるかどうか」
を問う内容となっていることが特長で、
優秀な社会人の育成を目的として実施しています
([商工会議所公式HP](#)より引用)

**簿記試験がなければ
これらの知識を1ヶ月で得られることは
不可能だっただろう**

fin.

Appendix

よくある誤謬集

- **株式の50%超を保有していても子会社にはならない**

→ 議決権の50%超を保有する必要がある

- **「価格」と「価額」の違い**

→ 価格は売買取引における値で、価額は一般定期的な値

- **「収益」という言葉の意味**

→ 本来は、 $\text{収益} - \text{費用} = \text{利益}$ となる

→ しかし、本来は収益の本業分という意味であるrevenueを収益と日本語訳してしまった

- **売上高 < 売上原価（原価割れ）となれば即刻販売を停止すべきか**

→ Noで、固定費を回収する貢献利益が負になった場合に停止すべき

参考文献

- 教養としての「会計」入門（金子, 日本実業出版社, 2023）
- 会計の地図（近藤/沖山/岩谷, ダイヤモンド社, 2023）
- 世界一楽しい決算書の読み方（大手町のランダムウォーカー, KADOKAWA, 2024）
- 世界一楽しい決算書の読み方 実践編（大手町のランダムウォーカー, KADOKAWA, 2024）
- スッキリわかる日商簿記3級（滝澤, TAC出版, 2024）
- スッキリわかる日商簿記2級 商業簿記（滝澤, TAC出版, 2024）
- スッキリわかる日商簿記2級 工業簿記（滝澤, TAC出版, 2024）